

自殺予告で学校が混乱

「体育祭を中止してください。このままでは自殺します。中止してください。当日、22日、学校で自殺します。私は本気です。ウソではありません。」

これは、山梨県のある中学校に9月下旬に届いた手紙だ。翌日には、全校で緊急のクラス会を開いて生徒に内容を伝え、「悩んでいるなら相談してほしい。」と呼びかけた。同校は体育祭の前日が文化祭。とりあえず、文化祭は実行すべく、生徒の反応を見ながら準備を進めた。

P T A 執行部にも意見を諮り、議論を重ねた。「中止しよう。」「毅然とした態度をとろう。」一意が飛び交ったが、21日、文化祭当日の昼休みに、体育祭の中止が生徒に伝えられた。「人命の尊重を考えればやむを得ない。」との意見でまとまったのだ。「レクレーション色が強い、体育デーは皆楽しみしている。事前・事後アンケートでも、いやがる声はなかった。思い当たる節はない。」校長の言葉は、中止決定が苦渋に満ちた選択だったことを臭わせる。

校長は手紙がいたずらである可能性を否定しない。「表記が体育デーではなく体育祭となっていることから、学外の者が書いた可能性は高い。間近に他県であったケースと似ているし。」「最後の体育デーだったのに、」「今までの準備は何だったのか。」と生徒は憤り落胆した。だがその後、生徒会で体育デーに代わる行事の催行を決議。学校は落ち着きを取り戻した。

この種の事件が、昨秋、北海道や神奈川などで連鎖反应的に起こった。ファクスで、あるいは電話で、学校や校長の自宅、役場などに、文化祭やテストの中止を求める自殺予告の通知が届いた。NHKの調査によると、そういった通知に対して、35件が実施し15件が延期し9件が中止したという。

どんな思いから子どもたちは自分の命を盾にとり、このような行動に走るのか

・いやなことから逃げようとする？

最近の子どもは、周囲のだれもが自分の言うこと聞いてくれる環境で育ってきている。そのため、相手のことや後先のことを考えずに、自分の思い通りに動かそうとする傾向がみられる。いやなことには立ち向かおうとせず、逃げたいから逃げるという甘えた子が増えていのではないか。

・命を張って大人に訴える？

子どもが救いを求めている。あまりにも子どもの立場で話を聞ける大人が少ないのではないか。声を聞いてもらおうとしているのかもしれない。

・命の重みを考えていない？

ファミコンのゲーム中で殺人が行われるーいったん電源を切って、またつけると、一度死んだはずのキャラクターがよみがえっている。テレビ番組の中でもそう。亡くなった、はずのタレントがにこにこ話をしている。また、核家族が進み、祖父母と同居しなくなるにつれ、人の死に立ち会う機会がなくなっている。そういう経験を繰り返すうちに、死に対する恐怖心を持たず、命の重みがわからないまま育ってきたのではないか。そして、簡単に死を口にする。

・スリルを楽しんでいる？

万引きの常習者はいかに見つからずに万引きするかにスリルを感じるという。その心理と同じで犯人捜しの中でどれだけしらばっくれられるかに、ゲーム感覚で快感を感じているのかもしれない。学校が荒れる姿を見てあざ笑う子どもの姿も見え隠れする。

何を考えている!!死ねるものなら死んでみろ!!と言いたいところだが…。

よく考えてみれば、「学校を楽しくしてほしい」という子どもからのメッセージだとも受け取れる。頭ごなしに茶髪やポケベルはダメだと禁止していないだろうか。いじめはいけないとしながら体罰は横行していないだろうか。生徒会などの機関は保障されているだろうか…なぜ、脅迫まがいの自殺予告が学校に舞い込むような状況が起こっているかに目をむけ、学校の管理体制のあり方について見直す必要もあるのではないか。